

選手直前インタビュー 俺の出番だ!!



川津 悠揮 (北海道/96期)

地元記念を走るのは初めて。走るのは嬉しいけど、緊張しますね。1月立川記念で落車したけど、最近練習の感じがよくなってるので、結果が出せればなと思います。記念は今まで準決勝に行ったことがないし、1着を取ったこともない。1着取りたいけど、まずは勝ち上がれるように頑張りたい。



荒澤 貴史 (北海道/85期)

(4月函館ナイターGⅢは)地元の代表として決勝に乗りたかった。二次予選は勝てたけど、ラインで決められなかったのは自分のミスだし、反省しないといけない。いい位置を回らせてもらってもあれではダメですね。いい時と比べるとまだまだの状態ですが、函館記念も出られるので、しっかり頑張ります。

宿口 陽一 (埼玉/91期)

地元の4月西武園記念を2③⑨①着。シンガリに沈んだ準決は平原康の1着に貢献し、あとの3走をしっかりとまとめた。ダービーでは新山響ら相手に、まくりでGI初勝利。近況はレースも見えて、乗れている。



PICK UP RACE



清水 裕友 (山口/105期)

近況はまくりを多用。ダービーの一次予選でもまくり快勝で岩津裕介とワンツー。レーススタイルも変わりつつあるが、最終日は同期の石塚輪と壮絶なモガき合い。相打ちも自力としての意地を見せた。



石塚 輪太郎 (和歌山/105期)

ダービーで初めてGIを経験。2走目に逃げ切りで勝ち星を挙げ、さらには近畿が上位独占を果たしたファイナルで突き動かされた。「ただの先行選手で埋もれて終わらないように」と、さらなる上昇を誓う。

レインボーカップA級ファイナル

6/5 (最終日) 第9R

得点1位の小原のまくり脚は

勝負駆けとは関係なく、小原唯志、久木原洋の関東勢を本線に狙ってもいい。3月取手から目下3連覇中で、競走脚を上げていた。立て直してチャンスモノに出来るか。

1着〜3着までに入ればS級に特別昇級を果たす恒例の一戦。1・2班選手の頂上決戦にふさわしい面子がそろった中、来期もA級で勝負駆けなのは橋本智昭、日野博幸、大竹慎吾の3人。その点も考慮して橋本、金成和幸で組む北勢を重視したい。前期S級の後半から身体が動くようになった”と話す橋本は勢いそのまま今期は6V。まずは先行することを考えて組み立てている”と迷いがなく、その成績にも増して強さを感じさせる。1月取手で2回ワンツーと相性抜群で、A級なら自力も出せるほど脚に余裕がある金成が援護役に徹するのは何よりも心強い。直前にも当所開催を走れるのも好材料だ。

橋本智昭が勝負駆け



小原 唯志



橋本 智昭